

平成 29 年度 大垣市障がい者の暮らしを支える協議会  
各部会の開催報告

5 部会：子ども支援部会、暮らし支援部会、相談支援部会、就労支援部会、  
権利擁護部会

## ■子ども支援部会

### ◆開催日

【第 1 回】平成 29 年 9 月 26 日（火）

【第 2 回】平成 29 年 10 月 11 日（水）

【第 3 回】平成 30 年 1 月 16 日（火）

【第 1 回】

### ◆メンバー 49 人

相談支援事業所：大垣市柿の木荘 ほかに 7 事業所

通所支援事業所：大垣市立ひまわり学園 ほかに 17 事業所

大垣特別支援学校

### ◆テーマ（第 1 回～第 3 回共通テーマ）

支援を必要とする障がいのある児童の健全な育成を図る

～相談支援事業所、障害児通所支援事業所が提供する支援の質の向上に向けて～

### ◆部会の内容（主な意見や課題等）

- ・西濃圏域発達障がい支援センターの専門支援員を講師に招き、子どもの捉え方と個別支援計画等の立て方の概論について研修を行った。
- ・適正な支援を行うためには、相談支援員、児童発達支援管理責任者が作る計画が重要。
- ・定期的な研修の開催。研修情報を事業所に提供する。

【第 2 回】

### ◆メンバー 46 人

相談支援事業所：ゆう ほかに 8 事業所

通所支援事業所：のとよ一び ほかに 18 事業所

大垣特別支援学校

### ◆部会の内容（主な意見や課題等）

- ・西濃圏域発達障がい支援センターの専門支援員を講師に招き、子どもの捉え方と個別支援計画等の立て方について、主にアセスメントの観点から研修を行った。
- ・適切な計画の作成には、どのような点から子どもを捉えるか、適切なアセスメントが必要。

- ・保護者の利便性向上と選択肢を広げられるよう、事業所情報を市ホームページで提供する。

### 【第3回】

#### ◆メンバー 43人

相談支援事業所：障がい者支援センター けあ・わーくす大垣 ほかに7事業所  
通所支援事業所：放課後スクール林町教室 ほかに17事業所  
大垣特別支援学校

#### ◆部会の内容（主な意見や課題等）

- ・事例の課題整理と個別支援計画の作成についてグループに分かれて協議し、西濃圏域発達障がい支援センターの専門支援員による指導を行った。併せて、情報交流を行い事業所間の連携を図った。
- ・子どもの発達が年々遅くなっている。子どもの発達ニーズを捉え、今必要な支援を提案できるよう、相談支援事業所、通所支援事業所の質の向上が求められている。
- ・保護者の要望のみにとらわれず、児童にとって何が今必要かを見極める。
- ・事業所が全ての支援を負うのではなく、家庭で行ってもらうべき支援は提案し、協力して進めていくことが大事。

## ■暮らし支援部会

#### ◆開催日

【第1回】平成29年10月31日（火）

【第2回】平成30年1月22日（月）

### 【第1回】

#### ◆メンバー 25人

相談支援事業所：ワークステーション大垣 ほかに11事業所  
地域包括支援センター（市・社協、お勝山）  
高齢介護課

#### ◆テーマ

障害福祉サービスから介護保険サービスへの円滑に移行できる体制整備について

#### ◆部会の内容（主な意見や課題等）

- ・障害福祉サービス利用者の高齢化に伴い、障害福祉サービスから介護保険サービスへの移行を検討するケースが増加すると考えられるため、両サービスの適用関係を学び、円滑に移行できる体制について検討した。
- ・大垣市高齢介護課 課長の篠田浩氏より「高齢障害者の介護保険サービスの円滑な利用

について」説明を受け、地域共生社会がめざすものや平成 30 年の制度改正(共生型サービス)について、今後の留意点についての 3 点について学んだ。

- ・事例検討では、「障害福祉サービスから介護保険サービスへ円滑にできることを考えよう！」をテーマに、69 歳で障害福祉サービスを利用している方が介護保険へ移行した事例について、介護保険サービスへ移行しても、引き続き本人が安心した生活を送るためにできることを視点に協議した。
- ・移行後も安心した生活を引き続き行うためにできることを早い段階から検討することが必要で、そのためには、障害分野と高齢分野との早期の連携が大切であること、また支援者が相互制度理解を深める必要があることを確認した。
- ・障害福祉分野と高齢福祉分野との連携の重要性を再認識したことから、今後も顔の見える関係づくりの機会の場の提供をしていく。

## 【第 2 回】

### ◆メンバー 30 人

相談支援事業所：大垣市社会福祉協議会障がい者相談支援事業所 ほか 9 事業所

医療機関：大垣病院 ほか 3 病院

大垣市社会福祉協議会地域福祉課、西濃保健所、地域包括支援センター（市・社協）

### ◆テーマ

保健所が緊急対応（危機介入）した事例の地域の見守り支援体制について



### ◆部会の内容（主な意見や課題等）

- ・西濃保健所の上野敦子氏により、保健所が緊急対応や危機介入した事例の悪化予防に向け取り組んでいる「悪化予防パス」の流れ、通報の概況、市内対象者の現状などの説明を受けた。
- ・悪化予防パスは治療により病状の改善と悪化予防が可能な統合失調症で、家族支援が弱く、服薬の中断リスクが高い、警察の協力により入院を支援した事例を対象に、入院中から関係機関が共通認識を持つ支援体制をつくるもので、退院後、地域での見守り体制が医療と連携することが再入院防止につながることに理解をした。

- ・市内で実際に悪化予防パスの対象となった事例をもとに、①「再入院を防ぐために、どんな機関が関わるのか?」、②「各機関はそれぞれ何ができるのか?」についてグループワークを行った。
- ・①については、病院、相談支援事業所、保健所、市障がい福祉課、社会福祉協議会、障害者生活支援センター、障害者就労支援センター、生活困窮相談窓口、弁護士、裁判所、警察、訪問看護、自治会、民生委員など多岐にわたる機関が挙げられた。②については、「入院中に相談支援事業所と連携を取り、早期に相談支援専門員が介入する」などの意見が出た。
- ・医療と地域との連携、各機関の役割が分かり、統合失調症の危機介入事例のみならず、他の支援での参考となるとの意見があった。悪化予防パスを参考に、精神障がい者が地域で安心して生活できる環境づくりに役立てていきたい。

## ■相談支援部会

### ◆開催日

- 【第1回】平成29年4月20日(木) 委託相談連絡会
- 【第2回】平成29年6月14日(木) 委託相談連絡会
- 【第3回】平成29年9月28日(木)
- 【第4回】平成29年12月21日(木)
- 【第5回】平成30年1月23日(火) 委託相談連絡会

### ◆テーマ(第1回～第5回 共通)

相談支援のスキルアップ

### 【第1回】

### ◆メンバー 9人

委託相談支援事業所：せせらぎ ほか3事業所  
障がい福祉課 事務局

### ◆部会の内容

相談支援部会(委託相談連絡会含む)の年間計画を作成

### 【第2回】

### ◆メンバー 9人

委託相談支援事業所：障害者生活支援センター ほか4事業所  
障がい福祉課 事務局

### ◆部会の内容

- ・平成29年度 大垣市障がい者の暮らしを支える協議会各部会の年間計画及び検討事項

について意見交換

- ・相談支援部会の事例検討の内容、進め方について検討し、相談支援専門員が1人しかいない相談支援事業所が抱えている困難事例について、事例検討会を開催することにした。
- ・相談支援の質とサービス等利用計画の評価基準について再確認を行った。

### 【第3回】

#### ◆メンバー 19人

相談支援事業所 緑の丘相談支援事業所 ほかに10事業所

医療機関：西濃病院 ほかに1病院

岐阜県地域生活定着支援センター、西濃保健所

#### ◆テーマ

困難事例検討会「触法障がい者の地域生活支援について」



#### ◆部会の内容（主な意見や課題等）

- ・「岐阜県地域生活定着支援センター」よりセンターの概要や取り組み、触法障がい者への支援の現状等について説明をしていただき、知識を高めた。
- ・相談支援事業所が抱えている困難事例「痴漢行為等を繰り返し、何度も警察に通報、保護されている障害福祉サービスを利用する知的障害者」について、地域で支えるためにはどんな支援ができるのかについて、事例検討会でグループワークを行った。
- ・今回のような事例検討会で困難ケースや家族支援の事例について検討したい、支援にあたる際に参考にしたいという意見があった。また、検討時間が短く検討しきれなかった、質疑応答の時間が欲しかった等の意見があったため、来年度の部会では知識を深め、事業所同士や他の機関との連携性の向上を目指し、一つの困難事例について時間をかけて検討していきたい。

#### 【第4回】

##### ◆メンバー 64人

相談支援事業所：相談支援事業所かがやき ほか10事業所

児童発達支援事業所：ラディアントスマイル ほか16事業所

医療機関：不破ノ関病院 ほか2病院

県機関：岐阜県精神保健福祉センター、西濃保健所、西濃子ども相談センター、

市機関：子育て支援課、保健センター

##### ◆テーマ

困難事例検討会「育てにくさのある子を持つ精神障がいの母親への支援について」

##### ◆部会の内容（主な意見や課題等）

- ・岐阜県精神保健福祉センター精神科医師櫻庭泰氏より「精神障がいの基礎理解」について、講義していただいた。講義を通じ、精神障がいについて理解し、今後の関わりや対応を学ぶことができた。
- ・子どもに関する各種制度を子育て支援課より説明していただき、知識を高めた。
- ・相談支援事業所が抱えている困難事例「放課後等デイサービスの利用児童として携わっているケースで、母が精神障がいで生活の困難さを感じる家庭への支援」として、母親への負担軽減のためにできることについて事例検討会を行った。
- ・事例検討会では、グループワークを行い、事例の母が自立した社会生活を営むために、今後福祉サービスや地域でどのような支援や関わりが必要になるのかを検討し、母親への負担軽減のためにできるフォーマル・インフォーマルな支援を協議した。
- ・母の特性が人との関わりがもてない事例であったことから、ネットサークルを紹介してはどうかや、子の通所先である放課後等デイサービス職員が送迎の際、話を聞くようにしてはどうかなど様々な提案が挙げられた。
- ・多職種との連携の大切さや社会資源の重要性を再確認することができた。

#### 【第5回】

##### ◆メンバー 7人

委託相談支援事業所：グリーンヒル ほか2事業所

障がい福祉課 事務局

##### ◆部会の内容

- ・大垣市障がい者の暮らしを支える協議会での検討すべき内容等について意見交換  
困難事例の検討について
- ・平成30年度障害福祉サービス等報酬改定について勉強会



## 就労支援部会

### ◆開催日

【第1回】平成29年8月10日（木）

【第2回】平成30年1月18日（木）

### 【第1回】

◆メンバー 事業所・事務局：35人 一般参加者：62人

就労支援事業所：Noto カレッジ ほかに15事業所

大垣市障がい者就労支援センター

### ◆テーマ

就労支援事業所紹介フェア

### ◆部会の内容（主な意見や課題等）

- ・市内の就労移行支援事業所、就労継続支援A型・B型事業所ごとに、1事業所1ブース設置し、ポスターセッション形式で事業所の取り組み内容や仕事内容の紹介を行った。
- ・事業所が一同に集まり、それぞれの事業所の取り組みや特徴を聞けるような機会は少ないので、次回も開催して欲しいという意見が参加者、事業所ともに多かった。
- ・今回は、昨年の反省から1つの事業所ブースのスペースを大きく確保し、ブース間に間仕切りを設置したため、事業所の説明が聞き取りやすかったとの意見があった。
- ・次年度以降の課題として、事業所からの一方的な説明に終わらず、個別に話を聞ける時間を設けることや、障がい者就労支援センターの継続的な支援につながる方策などが上げられた。



## 【第2回】

### ◆メンバー 29人

民間企業：サン・シング東海、大垣共立銀行、西濃運輸

就労支援事業所：いぶき作業所 ほか12事業所

### ◆テーマ

障がい者雇用をしている西濃地域の企業と障がい者就労支援事業所との意見交換会

### ◆部会の内容（主な意見や課題等）

- ・大垣市内の就労支援事業所と障がい者雇用を積極的に行っている民間企業による、採用から就労定着までの支援内容や就労支援事業所として就労までに利用者に心がけてほしいこと、障がい者雇用の成功・失敗事例、採用後の民間企業が気を付けるべきことなど、質疑等を交えて協議を行った。
- ・企業から社内での理解の得方、成功例と課題例、今後の採用の展開方法などについてお話をいただいた。一方で、就労支援事業所からは障がい者雇用をする上でより個別的なサポート体制の必要性や地域の福祉施設、事業所等との連携の強化、精神障がい者の方への配慮などの提案があった。
- ・次年度から引上げされる法定雇用率、ならびに精神障がい者の雇用に関して、定期的な面談により、障がい特性や適性を知り対応していくことや、必ず何らかのサインを出しているのを観察すること、配慮が必要なことを周囲に知らせること、雇用率を上げるために事務を細分化してできる仕事を増やすことなどの意見が出された。

## ■権利擁護部会

### ◆開催日

【第1回】平成29年8月28日（月）

【第2回】平成29年11月20日（月）

## 【第1回】

### ◆メンバー 22人

市内法人後見事業所：西濃地域成年後見支援センター

NPO法人 障害者地域生活サポート相談所 青空

相談支援事業所：けあ・わーくす大垣 ほか12事業所

### ◆テーマ

成年後見制度法人後見事業について



◆部会の内容（主な意見や課題等）

- ・相談支援事業所へ相談支援における成年後見制度利用の実情や知りたい内容等について事前アンケートを行い、その結果報告や、成年後見制度法人後見事業を実施している市内事業所に、事業の概要や実情についての説明や質疑応答をしていただき、参加事業所間で実態把握と情報共有をし、必要時、つなぐことができる支援機関であることを認識した。
- ・後見人と本人が同じ価値観であればよいが、価値観に相違があると権利擁護を行っても、権利侵害とみられてしまうので、十分な説明が必要である。
- ・法人後見では、法人の複数の職員が職務執行者として成年後見制度に基づく後見事務を行うので、長期的・安定的に後見事務を継続できるという利点がある。
- ・障がいの重度化、障がい者の親の高齢化などが進むなか、成年後見制度の利用が必要となる方が増加する。また、障がい者の方にとっては、長期的に後見事務を継続できる法人後見事業は、今後重要になってくる。

【第2回】

◆メンバー 39名

障害福祉サービス事業所：大垣市柿の木荘 ほかに14事業所

児童発達支援事業所：すてっぷ ほかに7事業所

相談支援事業所：相談支援事業所すこやか ほかに10事業所

◆テーマ

障害者虐待防止研修会

～イライラを解消して虐待防止に役立つアンガーマネジメント～



◆部会の内容（主な意見や課題等）

- ・大垣市障害者虐待防止センターにおける通報件数等（平成28年度：通報4件・虐待認定なし、平成29年度通報3件・うち虐待認定2件）を報告した。

- ・市内の障害福祉サービス事業所、児童通所支援事業所、相談支援事業所を対象に、アンガーマネジメントを通じて障害者虐待防止に役立てていただく為、社会福祉法人成春館田原授産所施設長である鎌田博幸氏により、「イライラを解消して虐待防止に役立つアンガーマネジメント」のテーマで講義を実施した。
- ・障がい者は、その障がい特性により思わぬ行動に出ることがあり、そのようなときに声を荒げて怒る、無理に行動を制限してしまうことが虐待に繋がってしまうこともあるため、講義においては、怒りをコントロールすることで、他人や自分を傷つけず、モノを壊さず上手に怒っていることが表現できる方法について学んだ。
- ・怒りは喜怒哀楽の中で一番パワーを持っており、うまくコントロールできないと人間関係を壊したり、犯罪に繋がることもあるので、アンガーマネジメントの必要性は今後大きくなっていく。
- ・講義の中で、グループに分かれて怒りに関する体験や、その怒りに対する自己診断等について意見交換を行った。
- ・怒りは人間にとって自然な感情の1つで、なくすことは不可能であるが、怒りの感情と上手に付き合いながら、今後の支援にあたっていただきたいと伝えた。